

ファイナンスに関する説明資料

～第三者割当による新株式及び第13回新株予約権発行～

2026年2月20日

株式会社ファンペップ

証券コード4881



<http://www.funpep.co.jp>

- 本資料に記載された将来の業績に関する記述は、将来情報です。将来情報には、「信じる」、「予期する」、「計画する」、「戦略をもつ」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性がある」というような表現および将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます（これらに限定されるものではありません）。将来情報は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来情報は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来情報に明示または黙示されたものとは大幅に異なる場合があります。したがって、将来情報に全面的に依拠することのないようご注意ください。
- 本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の真実性、正確性や完全性に依拠し、前提としています。当社はかかる情報のうち、当社以外の第三者の公開情報等の真実性、正確性あるいは完全性について独自の検証を行っておらず、その真実性、正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

Mission

ファンペップは、ペプチド技術を追求し、人々が幸せに暮らせるように貢献します。

Vision

ペプチドで元気を世界へ

元気とは、心身の活動の源となる力。健康とは、心身が健やかなこと。

私たちファンペップは、ペプチドの研究開発を通じて、世界の人々を健康にするだけでなく、元気を与えられるような会社を目指します。

Values

- 私たちは、誰よりもペプチドの可能性を信じ、困難な課題に挑戦し、追求します。
- 私たちは、互いを尊重し、感謝し合い、協同します。
- 私たちは、私たち自身が常に健康を意識し、元気であり続けます。
- 私たちは、人々に活力を与えるペプチド製品を世の中に提供していきます。

独自のペプチド技術を活用し、画期的な医薬品を創出します。

抗体誘導ペプチドを「次世代ワクチン」として完成させるために尽力します。

医薬品に限らず「ペプチドヘルス」「ペプチドコスメ」など新たな市場を開拓します。

細胞の中で、アミノ酸がタンパク質になる過程でできた、
タンパク質よりアミノ酸の数が少ない固まり



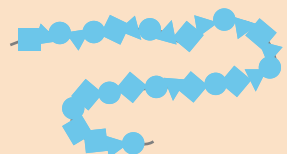
タンパク質の状態では体内に吸収できないため、つながりを短くしていき、アミノ酸やペプチドに分解されます。
分解されたアミノ酸やペプチドはさらに分解されたり、あるいはタンパク質として合成され、
血液によって各組織へ運ばれ、筋肉、内臓、骨などの材料になったり、体の中でさまざまな機能を果たしています。

ペプチドの特徴

- ・ 小さいので、合成で簡単に作れるため、**改変することで最適化をしやすい**
- ・ **食品や美容の分野でも注目**されていて、製品に使用されている

機能性ペプチドAG30を起源とし、
ペプチド加工ノウハウを強みに研究開発パイプラインを構築

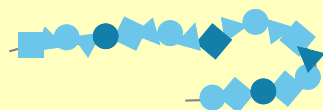
機能性ペプチド「AG30」



<機能>
・血管新生作用
・抗菌活性

かいよう
皮膚潰瘍治療薬
第III相試験実施中（日本）

機能性ペプチド「SR-0379」



皮膚潰瘍・褥瘡の治療薬として開発中

機能性ペプチド「AJP001」



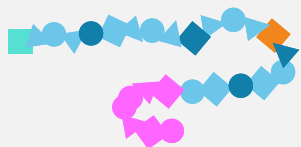
身体の中で病気を治療する抗体を作る
抗体誘導ペプチドとして研究開発に注力

機能性ペプチド
(抗菌ペプチド)



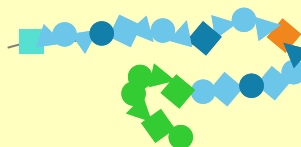
かんせん
乾癬治療薬

抗IL-17A抗体誘導ペプチド
「FPP003」

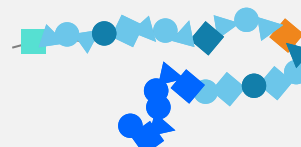


花粉症治療薬
第I相試験実施中（日本）

抗IgE抗体誘導ペプチド
「FPP004X」



抗IL-23抗体誘導ペプチド
「FPP005」



機能性ショートペプチド
「OSK9/AAP」



塩野義製薬との提携の下、 2つの重要開発プロジェクトの臨床試験を推進中

<開発品>

	開発品	対象疾患	事業化 想定地域	臨床試験 実施地域	探索 研究	前臨床	臨床試験			導出先等
							第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	
機能性 ペプチド	SR-0379	皮膚潰瘍 (ひふかいよう)	全世界	日本	第Ⅲ相（02試験）					塩野義製薬（株） (全世界のライセンス契約)
抗体誘導 ペプチド	FPP003 (標的：IL-17A)	乾癬 (かんせん)	全世界	豪州	第Ⅰ／Ⅱa相					未定
		強直性脊椎炎 (きょうちくせいせいついえん)	全世界	日本	第Ⅱa相					
	FPP004X (標的：IgE)	花粉症 (季節性アレルギー性鼻炎)	全世界	日本	第Ⅰ相					塩野義製薬（株） (全世界のオプション契約)
	FPP005 (標的：IL-23)	乾癬 (かんせん)	全世界	—	前臨床					未定

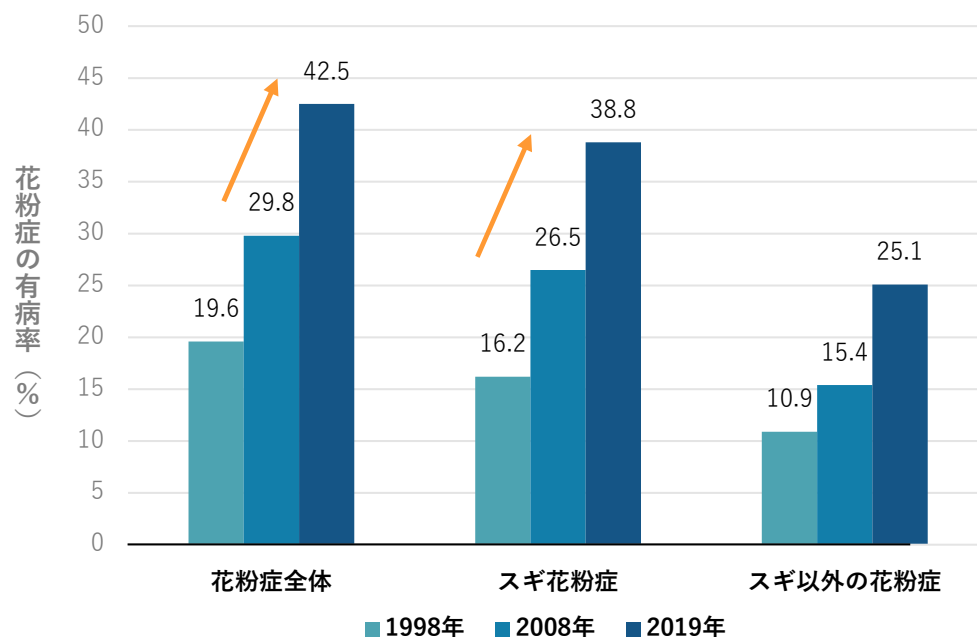
アレルギーワクチン FPP004X



<http://www.funpep.co.jp>

花粉症は、有病率が10年間で10%以上増加している国民病
さらに有病率の増加が危惧されている

鼻アレルギーの全国疫学調査



花粉症の有病率は、
2019年時点では、花粉症全体で42.5%、
スギ花粉症で38.8%と、10年間で10%以上増加している。

いずれも、1998年(20年前)の倍以上の
有病率になっている。

(出所) 松原 篤他. 鼻アレルギーの全国疫学調査 2019(1998 年, 2008 年との比較): 速報
-耳鼻咽喉科医およびその家族を対象として-. 日耳鼻 2020;123:485-490.

有病率の高さと症状の激しさから、毎春社会問題としてメディアに取り上げられています。
自然寛解が少ない疾患であることやスギ花粉症の低年齢化などから、
さらに有病率の増加が危惧されています。

毎日服用する煩わしさがなく、花粉症シーズン前に1回ワクチン投与すれば、
シーズンを通じて効果が持続する

現在の治療薬は
スギ花粉症の場合、
例年2月上旬ごろから5月初旬まで
約3ヵ月毎日服用

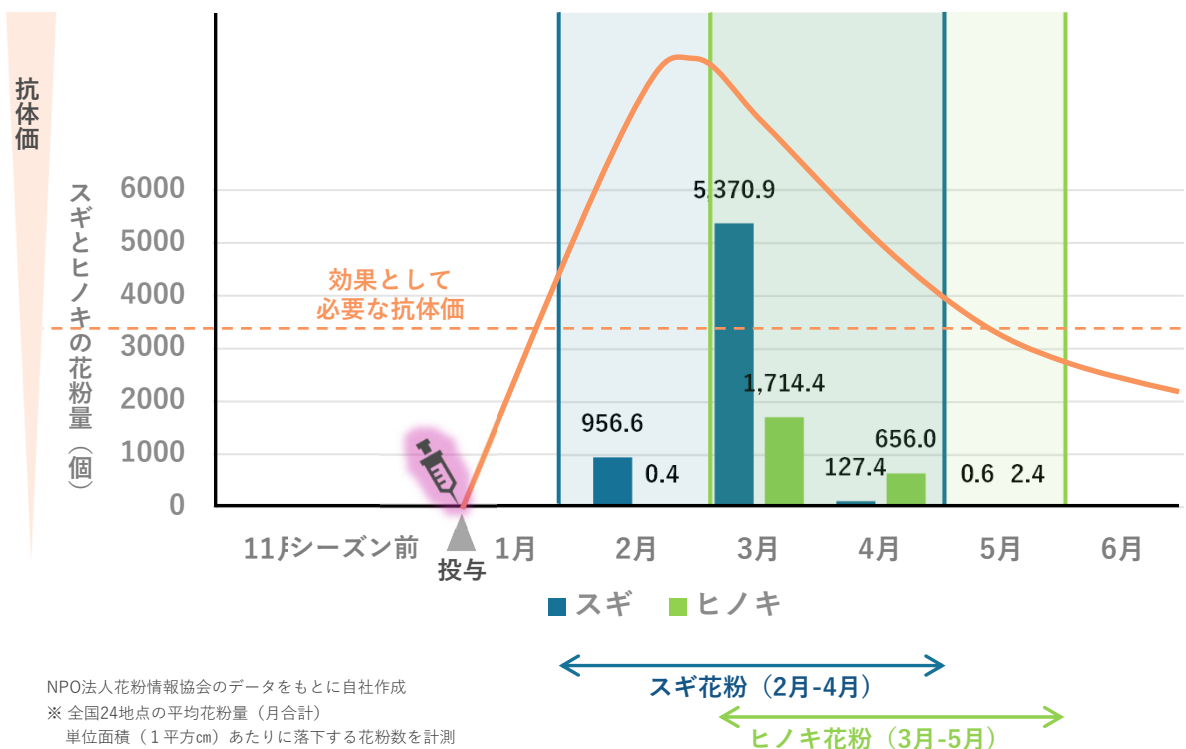
既存薬よりも良くなるPoint

花粉症のシーズン前に投与することで、
体内で抗体を持続的に作ることができ、
シーズンを通じて、花粉症の症状を緩和できる

〈花粉シーズン中 毎日1回の服用〉

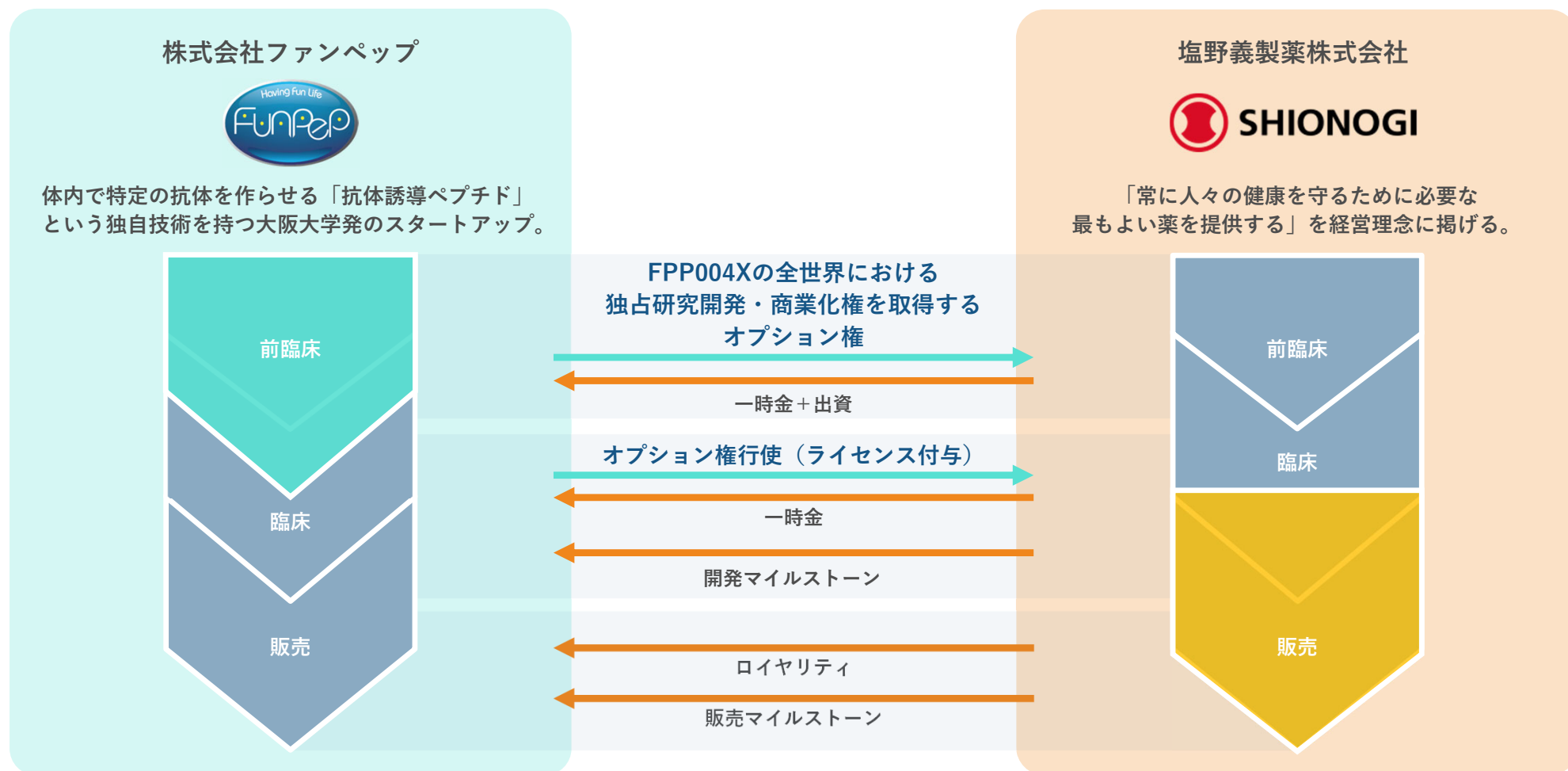


〈花粉シーズン中 毎日2回の服用〉



NPO法人花粉情報協会のデータをもとに自社作成
※ 全国24地点の平均花粉量 (月合計)
単位面積 (1平方cm) あたりに落下する花粉数を計測

FPP004Xは、大阪大学大学院医学系研究科との共同研究のもとで当社が創製した開発化合物で、**IgE（Immunoglobulin E）を標的タンパク質とする抗体誘導ペプチド**です。
花粉症（季節性アレルギー性鼻炎）を対象疾患として臨床試験を実施中です。



第Ⅰ相臨床試験の概要



- 2025年3月に試験を開始し、2025年10月に治療薬投与が完了
今後、2026年2Q(4-6月)に観察期間が終了、下期に試験結果が判明予定

< 第Ⅰ相臨床試験の概要 >

	対象者		用法・用量
パート 1	健常成人	コホート1	FPP004X（低用量）又は プラセボを4週間間隔で2回投与
		コホート2	FPP004X（高用量）又は プラセボを4週間間隔で2回投与
		コホート3	FPP004X（高用量）又は プラセボを4週間間隔で3回投与
パート 2	季節性アレルギー性鼻炎 (スギ花粉症)の患者様	コホート4	FPP004X（高用量）又は プラセボを4週間間隔で3回投与

皮膚潰瘍治療薬 SR-0379



<http://www.funpep.co.jp>

Copyright © FunPep All Rights Reserved.

対象となる疾患

皮膚潰瘍は主に3種類あります。それぞれ傷ができる原因は違いますが、
治っていく過程は変わらないので同じ薬を使って治療をします。

皮膚潰瘍

褥瘡

圧迫による血行障害

寝たきりや車いす生活などによって、
体重で圧迫されている皮膚の血流が
悪くなったり滞ることで、
皮膚の一部が赤い色味をおびたり、
ただれたり、傷ができてしまいます。

糖尿病性潰瘍

糖尿病による神経障害

足に頻発する糖尿病の
合併症として代表的なもの。
皮膚の炎症を放置しておくと
菌による炎症が皮膚の内部まで進み、
出血や膿などを伴い壊死して
潰瘍になってしまう。

下腿潰瘍

静脈血栓によるうっ滞

下肢静脈瘤など足の血管の異常が
原因で血液がうっ滞し、
くるぶしのまわりなどの皮膚が炎症を
起こして潰瘍ができた状態。
最初は皮膚が赤くなり、数週間から
数ヶ月単位で暗褐色に変色していき、
進行すると皮膚が破れて潰瘍ができます。

褥瘡(じょくそう)とはどのような病気なのか？

褥瘡（じょくそう）とは、
寝たきりや車いす生活などによって、
体重で圧迫されている皮膚の血流が悪くなったり滞ることで、
皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができてしまうことです。
一般的に「床ずれ」とも言われています。

褥瘡は圧迫を受けやすいお尻や腰骨周囲、踵（かかと）、肘などに生じることが多く、
皮膚の赤みやただれ、ひどくなると潰瘍（かいよう）や細菌感染を生じる場合もあります。



褥瘡によるさまざまな負担

褥瘡になると、患者さま本人だけでなく介護者にも負担がかかります。
介護量の増加で精神的なストレスにつながったり、
さらに治療代や入院費用など、経済的負担にもなる可能性があります。

本人の負担

継続する痛み

痛みがずっと続いたり、
傷口から菌が繁殖すると
感染症のリスクも高まります。



介護者の負担

傷口の管理

薬の塗布、傷口の洗浄、
定期的な体位変換、
栄養補給など



経済的負担

治療費用

薬や治療資材の治療用品代や
重症の場合は入院費もかかります。
さらに、病状が長引くと
その費用も増えていきます。



一日でも早い回復が必要

「SR-0379」の優位性



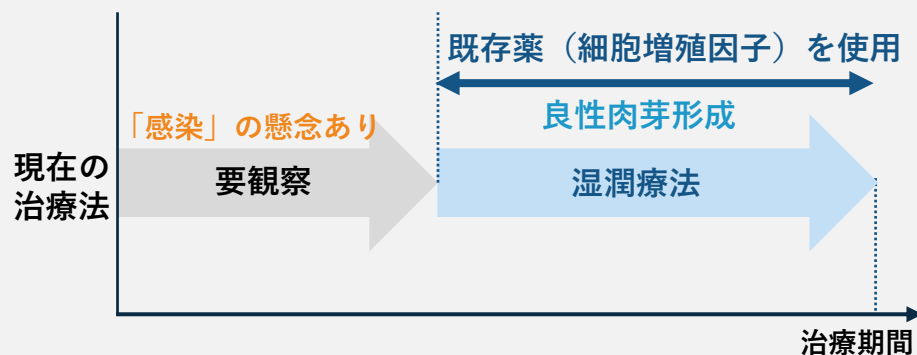
皮膚潰瘍治療薬「SR-0379」は、既存の治療薬よりも使いやすく治療期間も短い

現在は、冷蔵保存が必要な
スプレー剤が使用されている

冷蔵保存



現在の治療法では、
「感染」の懸念がある場合には、
要観察となる



既存薬よりも使いやすくなるPoint

Point 1

室温保存が可能



ベッドサイドに置くことができるようになる

Point 2

抗菌作用があるので、
現在の治療法よりも治療期間を短縮できる



前回の第Ⅲ相臨床試験（01試験）の結果

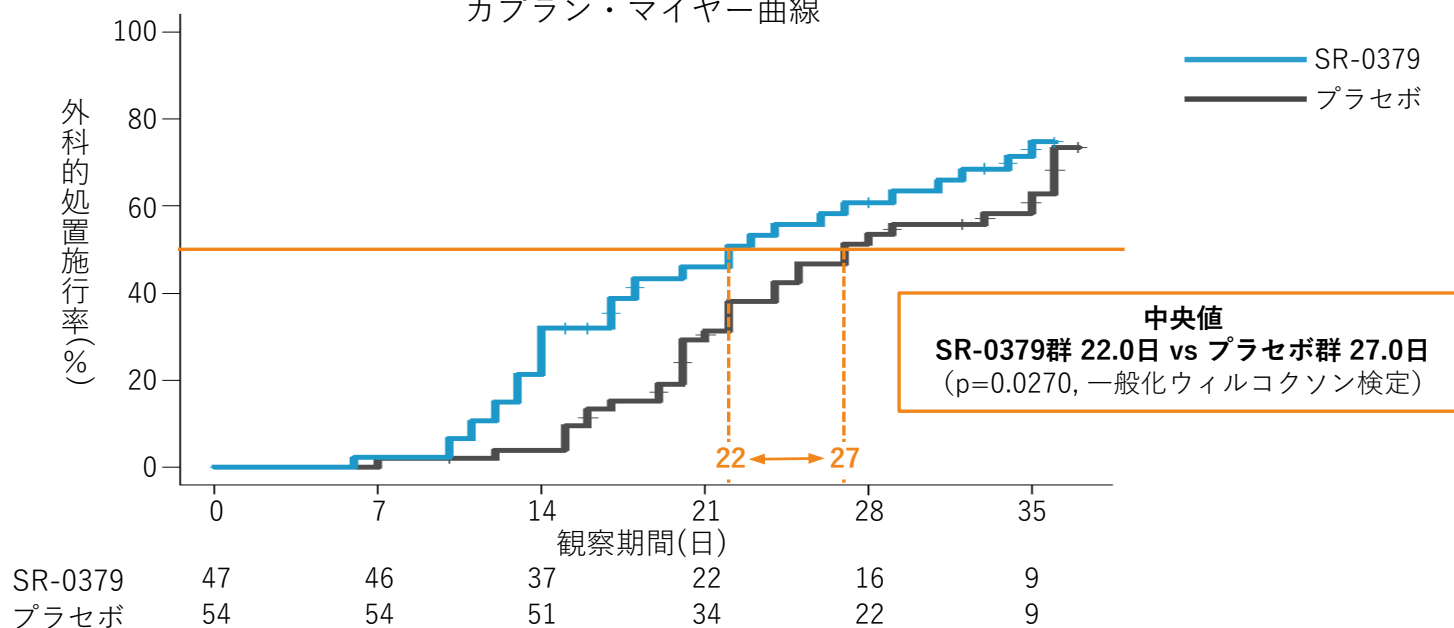


前回の第Ⅲ相臨床試験（01試験）の事後部分集団解析により
特定の皮膚潰瘍患者に対する **有効性が確認** されました

< 前回の第Ⅲ相臨床試験結果（01試験） >

事後部分集団解析
潰瘍サイズ（長径×短径）36cm²未満（N=101）

Kaplan-Meier 曲線



主要評価項目「外科的処置に至るまでの日数」について
SR-0379群は、プラセボ群に対して約5日間短縮しました

今回の第Ⅲ相臨床試験（02試験）の概要



- 2024年12月に試験を開始し、現在被験者登録を推進中
被験者登録が順調に進んだ場合、2027年上期に試験結果が判明予定

<今回の第Ⅲ相臨床試験（02試験）の概要>

試験デザイン	プラセボ対照二重盲検比較試験
対象患者	外科的処置（縫合、植皮、有茎皮弁）が必要な皮膚潰瘍を有する患者（潰瘍サイズ（長径×短径）36cm ² 未満）
主要評価項目	外科的処置に至るまでの日数
用法用量	SR-0379又はプラセボを1日1回、28日間投与
目標症例数	142例

研究開発パイプラインの拡充



<http://www.funpep.co.jp>

ファンペップが目指す「慢性疾患」予防ワクチン



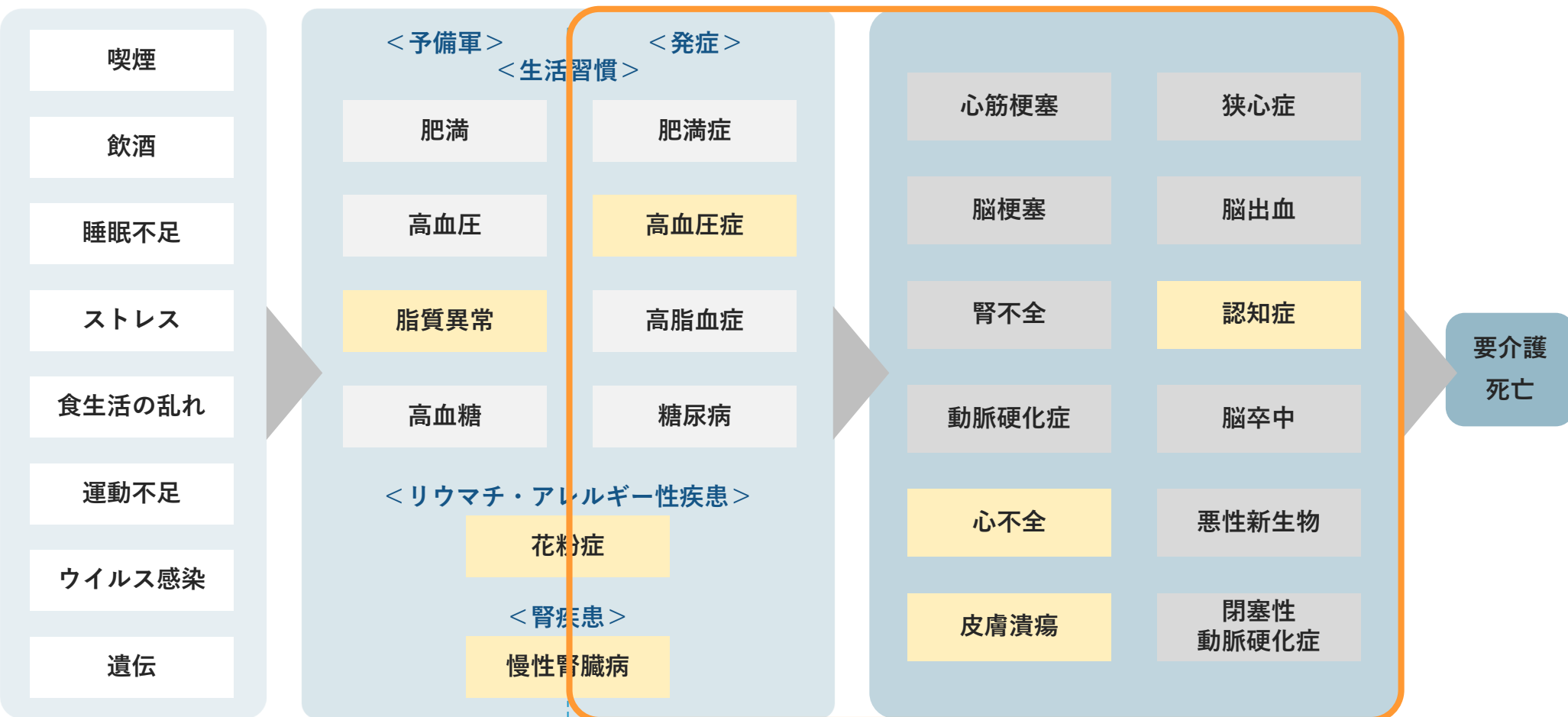
現在、抗体医薬の代替として、発症後の疾患に対するワクチンを開発している

《慢性疾患一覧》

<発症前/原因>

<症状発症>

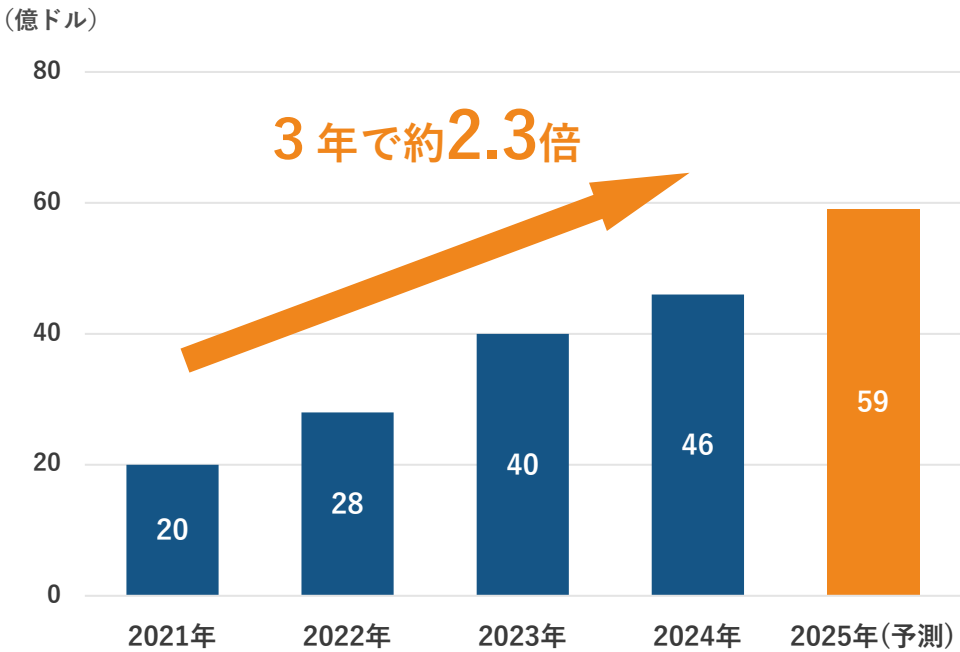
<重症化・合併症>



特殊ペプチド創薬研究の開始

富士フイルム和光純薬株式会社と研究委託契約を締結し、
病気の原因となる特定の標的分子に強く結合する特殊ペプチドを探す研究を実施中

経口ペプチド医薬の市場規模推移



(出所) TPCマーケティングリサーチ
「2025年 世界のペプチド医薬品市場・開発動向」 (2025年7月)

主な経口ペプチド医薬

【製品】

一般名	適応症	標的分子	売上高 (百万ドル)
semaglutide	2 型糖尿病	GLP- 1	3,397 (2024)

【研究開発】

一般名	適応症	標的分子	開発段階
enlicitide decanoate	高コレステロール血症	PCSK9	第Ⅲ相
icotrokinra	乾癬	IL-23R	承認申請中

外部連携による研究開発基盤の強化



外部企業及びアカデミアとの連携により
当社の創薬基盤技術「STEP UP」に基づく創薬活動を強化している

ターゲットの疾患

標的タンパク質に対する
候補化合物を共同で選定する



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO



熊本大学
Kumamoto University

創薬基盤技術
STEP UP
大阪大学と連携



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

AI

効率よく候補化合物を選定する



Xeureka

医薬品開発

前臨床/臨床試験から
製薬会社と提携して進める



SHIONOGI

製剤技術

候補化合物の効果をさらに増強する



SHIONOGI

ファイナンスの概要



<http://www.funpep.co.jp>

SR-0379、FPP004Xの2つの開発プロジェクトを推進するとともに、新規開発化合物の創出により開発プロジェクトを拡充する

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期
① 新規開発化合物の研究開発資金	400	2026年度 ～2027年度
② SR-0379、FPP004X及び新規開発化合物に関する研究開発を推進するための人件費	157	2026年度 3 Q ～2027年度 3 Q
③ SR-0379、FPP004X及び新規開発化合物に関する研究開発体制を維持するための事業運営資金	294	2026年度 2 Q ～2027年度 1 Q
合計	851	

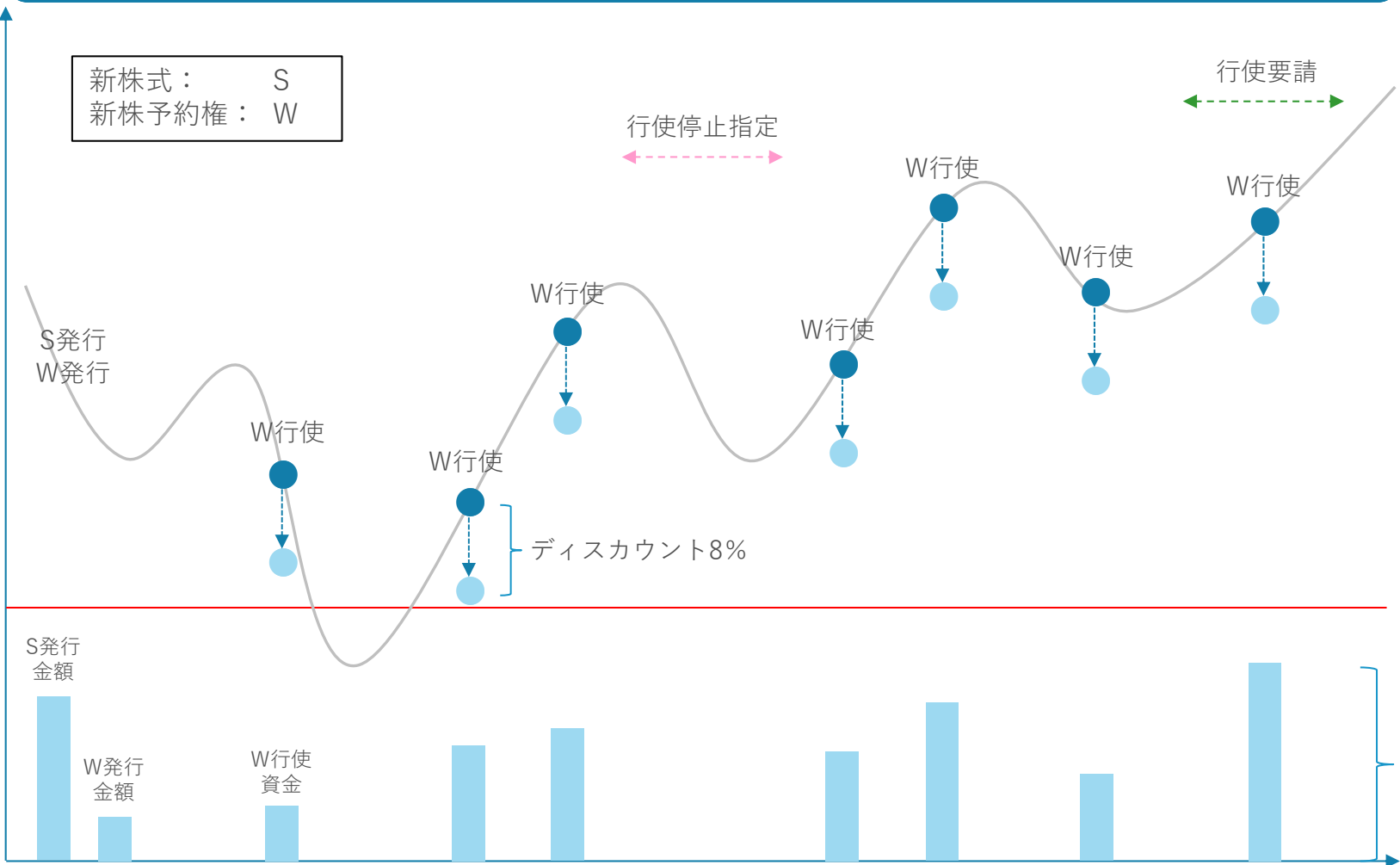
新株式と第13回新株予約権（行使価額修正条項付）を組み合わせたスキーム

調達手法	新株式（普通株式）	第13回新株予約権（行使価額修正条項付）
割当先	ネクスト・グロース株式会社	グロース・キャピタル株式会社
総発行数	352,900株	97,500個（1個あたり100株）
希薄化率 ^{*1}	0.87%	24.04%
発行価額	1株あたり85円	総額2,535,000円（1個あたり26円）
調達予定金額	29,996,500円	821,285,000円 ^{*2}
当初行使価額	—	85円
行使価額の修正	—	直前取引日の終値×92%（1円未満切り捨て）
下限行使価額	—	47円
行使期間	—	2026年3月9日～2028年3月8日（2年）
行使停止条項	—	当社は割当予定先に対し、行使停止期間を指定することができる
行使要請条項	—	当社は割当予定先に対し、行使を要請することができる
取得請求	—	当社は残存する新株予約権を発行価額で取得することができる

*1 総発行株数/発行済株式数40,563,800株（2025年12月31日現在）

*2 発行価額＋潜在株式数×当初行使価額－発行諸費用概算で算出。

新株式発行により一定の資金を確保したうえで、
新株予約権の行使毎に資金調達が進む



注) 上記は資金調達のイメージであり、株価推移や割当予定先の行使動向については実際と異なります。